

最終更新日	2009年(平成21年)3月6日
-------	------------------

校番 54	福山市立野々浜小学校
-------	------------

1 学校教育目標

個性を生かし 豊かな心と主体的な実践力のある子どもの育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

地域に夢と希望を与える存在として、一人一人の児童が基礎的・基本的な内容を確かに学びとる教育を実践し、地域・保護者に信頼される学校づくりをめざす。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 1 確かな基礎学力を身につける学校
 - ・習得・活用・探究を意識して、基礎的・基本的な内容を身につける授業を展開している。
 - ・豊かな心を持ち、規律ある生活ができています。
 - ・学習を支える美しい環境ができています。
 - ・よく遊び、進んで運動することができています。
- 2 開かれた学校
 - ・校内の取組みが教職員で共有化できている。(内へ開く)
 - ・情報公開を通して家庭・地域との深い連携ができています。(外へ開く)
- 3 人材の育つ学校
 - ・専門的な知識と授業力が育っている。 ・責任ある組織的な動きができる
 - ・公務員として、社会人としての自覚と実践力がある。

3 自校の現状分析

学力診断テスト(ABC)では、国語・全領域、算数「数学的な考え方」「知識・理解」と全国平均を上回っていた。しかし、国語の「書く」「読む」、算数の「数学的な考え方」は、70ポイントに満たない状況である。論理的に考える力をつけるよう協同的な学びの授業づくりを進めていく。

「あいさつ」「掃除」については、道徳学習や生活チェックカードでの振り返り活動によって、児童自己評価が92%となった。主体的に動いていく児童へと高めていく。

新体力テストの県平均に到達した項目は、40.6%である。上体起こしや立ち幅跳びなどの向上をめざし、セット運動の内容改善を図っていく必要がある。

分掌において責任をもった動きができています。各主任、主事がさらにリーダーシップを発揮し、指導力をつけていく。

4 研究主題

(1) 研究主題

心をひらき 共に考え よりよく生きようと学び合う授業の創造
～ 道徳の時間における伝え合いの充実を通して～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
文部科学省 市	道徳教育実践研究事業 教育研究支援事業(道徳)	平成20年～平成21年 平成20年～平成22年

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
協同的な学びの授業づくり 道徳性の実践力 体力の向上 効率的な学校運営	・友だちの考えから類似点・相違点を見つけ、自分の考えをより深めて、論理的思考力を高めていく。 ・道徳教育で育んだ規範意識を実践につなげる。 ・セット運動、食育の充実を図る。 ・組織の一員としての自覚の高揚を図る。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 短期(中期)経営目標 の達成状況 改善方針
確 か な 学 力	2	授業の学習過程 の工夫を通して、 基礎基本の定着 を図る。		継続	算数科において協同的な 学びの授業を実践し、児 童の学習意欲と達成度を 80%以上にする。	A	協同的な学びの場で、自分の考えを持って進ん で授業に参加できる児童を80%以上にする。 学習過程のまとめの段階に適応問題を実施し習 得を図る。 学習のめあての達成状況が、「おおむね満足」 に達する児童を80%以上にする。	a a a	児童自己評価88% 既習事項を生かして自分の考えを書くことが定着してきた。 類似点・相違点を重点とし取り組む。 適応問題の実施 87%。 1時間のまとめで適応問題を取り入れ、習得を図った。 90%以上実施する。 学習のめあての達成状況93% 何を考えていくのかわかりやすいめあての設定に努めた。 達成できた児童を90%以上とする。
				継続	学力診断テストで、児童 の83%以上を「おおむ ね満足」に到達させる。	B	単元テストで「おおむね満足」に達する児童を 83%以上にする。 年間を通して計算スキルに10分間取組み 正確に速くなった児童83%以上にする。	b a	3領域の平均80% 表現・技能の向上が見られた。 知識・理解に焦点を当て取り組む。 児童自己評価89% 計算力の伸びを実感し、意欲的に取り組むことができた。 系統的な学年のめあてを考慮して取り組む。
	2	全校合唱や図工 作品づくりを通 して、創り上げる 喜びを味わわせ、 児童の感受表現 を高める。		継続	意欲的に全校音楽や絵画 表現ができる児童80% 以上にする。	A	「歌うことが楽しい」(意欲・技能・達成感) という児童自己評価を90%以上とする。 「全校音楽の指導内容を、音楽や朝の歌声に生 かすことができた」という教師自己評価を9 0%以上とする。 感じたことや思いを楽しんで絵に表すことが できた児童80%以上とする。	a a b	歌うことに関するアンケート86.5% 歌詞の意味を考えた表現できるようになってきた。 合唱のよさに重点をおく。 教師自己評価100% 全校音楽のポイントを生かして取り組むことができた。 100%を継続していく。 児童自己評価79% 多様な技法を活用したり、友達の表現のよさを学んだりして 表現することができた。 鑑賞会を設定し、お互いの作品のよさを学び合う。
豊 か な 心	2	子どもの心に響 く道徳教育を全 教育活動で行う。		継続	自分の心や行動をよりよ くしようという気持ちに なった児童を90%以上 にする	B	「道徳の授業で自分を振り返ることができた」 という児童自己評価を80%以上とする。 「体験活動に結びつけた道徳学習を実践でき た」という教師自己評価を90%以上とする。 「規範意識をもつ」児童90%以上にする。	b a b	児童自己評価86% 自分を振り返ることで価値の意識が高まってきた。 授業で振り返りの時間を設定する。 実践率100% 総合単元の内容を意識し取り組むことができた。 総合単元的な道徳学習の内容の意識付けを図る。 児童自己評価85%

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

	2	子どもの自己指導能力(判断・行動・結果責任)の育成に取り組む。	継続	あいさつの意義(コミュニケーション・意欲・感謝・防犯)がわかり進んでできる児童95%以上にする。	B	「目と目を合わせ,明るく元気な声で,あいさつができた」という児童自己評価を95%以上とする。 児童会が毎月のあいさつ運動や点検票をもとにあいさつの大切さを伝える。	b	きまりやルールを守ろうとする児童は増えてきた。 児童会と連動して取組みを進める。 児童自己評価88%
			a	明るく元気であいさつできる児童がふえてきた。 個人のめあてを持たせあいさつ運動を展開する。 100%実践				
		継続	掃除の意義がわかり気づきのある行動ができる児童を85%以上にする。	B	「気づきのある掃除ができた」という児童自己評価を85%以上とする。 職員が「気づきのある動き」を認める発言を1日1回以上はする。	b	あいさつ運動(正門や体育館前)を確実に取り組んだ。 児童会を中心にした取組みを継続する。 児童評価83%	
		a	自分以外の場所でも気づきのある掃除ができてきた。 個人のめあてを設定・掃除カードの活用をし意識を高める。 実践率100%					
	2	児童の体力を向上させる。	継続	体力の実態把握とセット運動の充実を図る。	A	新体力テストの県平均達成を,50%以上とする。 「セット運動ができた」という児童自己評価を85%以上とする。	a	新体力テスト県平均達成率54.7%(96種目中57種目) 昨年度課題の立ち幅跳びは4~6年生は県・国平均を超えた。 ボール投げの動作をセット運動に取り入れる。 児童自己評価87.1%
			継続	食育の大切さを理解できた児童90%以上にする。	B	「朝ごはんもりもりカードを活用し,3大栄養素食品群を意識した」という児童を90%以上とする。 「給食を残さない」児童を90%以上とする。	b	体育の授業ははじめに取り組んできた。 88%とする。 児童自己評価78.9%
	a	意識している児童が増えてきている。 3大栄養素を意識できるように記録化を図る。 児童自己評価90%						
力量ある教職員	2	授業力を高める。	継続	研修を生かして,分かりやすい授業を実施したという教職員の肯定的評価90%以上する。	A	「先生の授業は分かりやすい」という児童・保護者評価を85%以上とする。 「研究授業などを中心にした研修を通して,授業力を高めることができた」という教師自己評価を90%以上とする。	b	児童は90%,保護者は84%
		教職員への信頼を高める	継続	「野々浜小学校教職員の心得」の達成率を90%以上にする。	A	学期ごとに1回の自己評価を行い,達成率を90%以上とする	a	個に応じた手だてを努めた。 個に応じた手だてを工夫していく。 教師自己評価100%
	a	授業力を高めていこうとする意識がさらに高まった。 計画的に授業研究を重点とした研修を組み立てる。 教師自己評価91%(16項目中12項目100%達成)						
		組織の一員として意識が高まってきた。 どの項目も90%以上とする。						

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

信頼される学校	2	地域・保護者の協力を教育活動の充実に結びつける。	継続	学校の教育方針について成果を伝え保護者の肯定的評価70%以上にする。	A	<p>教育目標に向けて努力している子どもの姿や学校の様子を載せた便りを月2回以上発行する。</p> <p>ホームページを各学年，学期1回更新する。</p> <p>学校の情報発信への保護者の満足度を70%以上とする。</p>	<p>a</p> <p>a</p> <p>a</p>	<p>通信に関する実践率【93%】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>学校の様子を掲載</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>通信発行率</td> <td>86%</td> </tr> </table> <p>学校目標に照らし合わせた内容を掲載してきた。教育方針を受けた内容のある通信を発行する。ホームページの学期1回の更新100%活動のねらいを明確にしたホームページとしてきた。学校行事は月2回以上掲載する。保護者の満足度77%学校通信で教育活動をわかりやすく伝えてきた。75%とする。</p> <p>計画的に地域行事に100%参加をしている。参加を通してタイムリーな地域の声を聞くことができた。努力目標として地域行事には参加をする。児童自己評価92%。地域の方の生き方を学ぶこともできた。85%とする。</p>	学校の様子を掲載	100%	通信発行率	86%
			学校の様子を掲載	100%								
			通信発行率	86%								
	新規	地域の行事に参加をしていく。	A	年間3回は，地域の行事に参加をする。(とんど，書初め，文化祭，夏祭り，トイレ掃除など)	a							
	新規	地域の人や保護者を講師として招聘したり，協力を得たりして教育活動を実践する。	A	児童のゲスト・ティーチャーに対する肯定的評価を80%以上にする。(年2回以上)	a							
	2	学校評価システムを核とした経営をする。	新規	評価の充実を図る。	A	プロセス評価表を活用して，計画的に改善を図る。	a	<p>100%，計画的に改善を図ってきた。担当が責任を持って取り組むことができた。8月・12月にはプロセス評価表を作成する。自己評価100%担当と主任が常に連携を図ることができた。月1回の学校評価委員会の内容の充実を図る。実践率100%担当は主任の指導・助言を受けながら計画的に実施できた。年間の見通しを持った方策を提示していく。</p>				
継続			主任・主事がミドル・アップダウン機能を発揮し，各担当に指導・助言する力をつける。	A	学校評価委員会で進捗状況をとらえ，主任・主事は各担当が方策を提示できるよう1つは指導・助言をする。各担当が方策を提示し，計画通りに100%実施する。	a						